

<巻頭言>

小さい成功(スモール・ウィン)を積み重ねる

原子燃料工業株式会社

牛尾 直史

皆さんは「小さな成功(スモール・ウィン)」という言葉をご存じでしょうか。ビジネス書などでよく目にするこの言葉は、文字通り「小さな部分でのささやかな成功」を意味します。新しいことを始める時や既存の仕組み、長年慣れ親しんだやり方を変える時には、このスモール・ウィンを積み重ねることが効果的だと考えられています。

現状から何かを変えよう、変えたいと思う時、大きな目標(ありたい姿)にいきなり挑むのは容易ではありません。人は大きな取り組みに対峙する時、どこから手を付ければ良いのか戸惑い、時には無力感に陥ることもあります。そこで重要なことは、環境や基盤を踏まえたうえで「成果が出そうな小さなこと」を見極め、まずはそこから着手することです。小さな取り組みであれば課題や影響範囲を限定でき、行動へのハードルを下げることができます。そして、小さな成功を積み重ねることで、「やればできる」という自信が生まれ、周囲にも「案外できそうだ」、「少しずつ変わってきた」といった前向きな雰囲気が広がります。

ここで大切なことは、スモール・ウィンが大きな目標と切り離された「目先の小さな成功」ではないという点です。一つ一つの取り組みは独立しているように見えても、最終的には大きな目標へと繋がっていなければなりません。スモール・ウィンはあくまでも「大きな目標に至る途中のささやかな成功」であることを忘れてはいけません。

過日実施した「炉物理部会の役割検討ワーキンググループ」では、部会としてのアクションプランを整理しました。整理したアクションプランは実行に移していかなければならないのですが、いざ整理はしたものの、様々なアクションプランのどこから手を付けていけば良いのか、正直戸惑ったところもありました。その際、何名かの方々から、「小さいことでも良いので、まずはそれを実行に移してみて、現状を変えていくことが大切だ」という助言をいただきました。まさに「スモール・ウィン」の発想です。この助言と部会員・関係者の皆さまのご協力のおかげで、若手技術者を対象として優秀講演賞の新設や部会運営小委員会の定期的な開催・メーリングリストによる情報共有、部会活動貢献者への表彰制度の開始、計算科学技術部会との合同セッション開催など、小さなことかもしれませんが、具体的な行動に移すことができました。

炉物理の研究活動においても、スモール・ウィンの考え方は有効だと思います。壮大な研究テーマに挑むことは研究者の成長に不可欠ですが、目指すべき目標が大きいほど、どこから始めればよいだろうかと悩んでしまうことが多々あると思います。そんな時こそ、小さな研究活動でも良いのでスモール・ウィンを達成し、それを積み重ねることで、最終的に研究者として大きな仕事を成し遂げることに繋がっていくのではないのでしょうか、私はそう思います。

小さな改革・小さな取り組みは、未知なる世界へ歩みを進める小さな一歩にすぎないかもしれませんが、しかし、その小さな一歩を積み重ねることで、大きな目標を達成できると考えています。もちろんスモール・ウィンの考え方だけが全てではありませんが、「Think Big, Win small

(大きく考え、小さく成功する)を意識しながら、今後も部会運営に尽力してまいりますので、引き続き皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

【参考文献】

1. 「小さな成功が大きな成果を生む？ スモール・ウィン理論の心理学とビジネス活用法」
<https://note.com/kurumejin/n/nfcec1e06b7db>
2. 「組織改革におけるスモール・ウィンとクイックフィックス」
<https://www.a-output.com/smallwin-vs-quickfix>
3. 「社内変革や新事業を成し遂げたいなら『初期の成功』を意識せよ」
<https://globis.jp/article/6473/>

(2025年12月16日)